

演劇的要素を取り入れた授業の可能性 —学生の振り返りから—

杉山ますよ

近年、演劇的要素を取り入れた授業の報告がなされるようになってきた。授業で長年演劇的要素を取り入れて行ってきたが、今回は主に「声に出して学ぶ日本語」として行っている授業の演劇的表現活動について学生の振り返りから分析する。この授業の目的は4点ある。1. 様々なジャンルの日本語を分析し、声に出して読んだり、演じたりすることで、より深く日本文化、日本語を知ること、2. 創造力を高め、自分の枠を超えた発想、発見ができるようになること、3. 仲間と協働して学ぶことにより、人との社会的な関係を築き、自分というものも見つめること。4. 人の考え方などの多様性を知り、共に学ぶことの楽しさを知ることである。

多くの活動はワークショップ形式で行い、学生同士が話し合い、一つの作品を毎回の授業で作らば、発表した。具体的に授業で行った活動はインプロ的（即興）活動、群読、朗読、ドラマリーディング、コント、連詩の作成である。朗読を除いてはすべてグループ、またはペア活動で行った。

インプロとは即興演劇のことをいう。最近ではその手法を使い教育やビジネスの場面でも創造性を養う目的で使われている。インプロの創始者の一人であるキース・ジョンストンの活動などを参考に創造力を高めたり、人間関係を築いたりする目的でインプロの活動を取り入れて行なった。群読とは「複数の読み手による朗読」であるが、作品を効果的に表現するため様々な工夫を凝らし読むだけでなく、授業では話し合いに基づき、身体表現も取り入れてもよいことにした。ドラマリーディングはシナリオや小説などの一部を読んだり、演じたりした。

学生の振り返りではインプロ的活動については即興で考え話すのは大変あったが、楽しくできた。最後はかなり早く様々なことを創造的に話すことができ、また皆の前で何かするということの恥ずかしさが消え、共に活動をするのが楽しくなってきたというコメントも多く得られた。またインプロ的活動が創造力を高め、他の活動をより活性化させることが学生の振り返りからもわかった。協働で詩やシナリオを読んだりする活動でも、目的の4つに関するコメントが多く得られた。本授業で行った演劇的要素を取り入れた授業の様々な可能性を学生の振り返りから確認することができた。